

立候補予定者公開討論会マニフェスト

【～みんなで考える広島のみらいづくり～】

氏名 大 原 邦 夫



I 基本理念『広島市政の現状認識・目指すべき広島市の姿』

(現状認識)
市政の第一の目標は、市民生活の向上・住民福祉の充実ですが、広島の場合、それを支える経済の落ち込みが激しく、まず「力強い経済」の再生を果たさなければなりません。また、この12年の誤った財政運営の結果破綻に傾いている市財政の建て直しが急務になっています。
(目指す姿)
中四国地方の中心都市でなければなりません。そのため、産業・経済だけでなく、スポーツ・文化・芸術の面でも振興に取り組み、人を惹きつけ、人が集まる都市にしなければなりません。同時に、世界初の被爆地として、世界に核兵器の廃絶を訴え、その実現のため行動する都市でなければなりません。

II 短期で行う重要施策（1年以内） ※優先順に3つ

①人件費の抑制。そのために率先重範、市長給与を半減します。 議員定数3割、報酬3割減を市議会に提案します。 総人件費の抑制に向けて話し合いに入ります。
②ムダが多いといわれる公共事業の中にも、市民生活を向上させる為の事業が沢山あります。それらを計画的、集中的に進めれば、民間企業の仕事を増やし、雇用の確保もできます。 例えば学校整備化、下水道、生活道路の保守管理を進めます。
③観光の振興を進め、世界の人が集まる都市をめざします。 観光資源の再発見や開発に努め、国内外にアピールします。 アジアからの観光客誘致を積極的に進めます。

III 中期で行う重要施策（4年以内） ※優先順に3つ

①広島駅周辺や市民球場跡地の開発を進めます。 広島市の中四国の拠点づくりのため、重要なのがこの2地点です。駅周辺は拠点性向上のための用地として有効活用を図ります。市民球場跡地は、都心の賑わい作りの拠点として整備計画の見直しします。
②広島のお母さんの子育てを応援します。 保育園の待機児童ゼロ、負担が重いと言われる保育料の段階的な軽減を図ります。 小学校で補助教員を配置し、教育力の向上を図ります。 介護施設の整備や柔軟な運営を実現し、待機者を限りなくゼロに近づけます。
③被爆者援護法の拡充を国に求めるとともに、多くの市民が参加できる平和行政への転換をします。 国際的なNGO・NPOとともに、核兵器禁止条約の早期締結に向けて、積極的に行動します。 広島に、こうした民間団体の情報交流拠点を、国・県の協力を求めながら作ります。

IV 長期で行う重要施策 ※優先順に3つ

①次世代の産業育成をめざします。 炭素繊維や強化プラスチックなど新素材の分野や森林資源を使った環境ビジネスなどを育成・誘致します。 多くの先端技術者やベンチャー企業を広島に呼び込める環境を整備します。
②保育料の上限月額1万円を実現します。 地域コミュニティの再生し、いじめ、虐待、孤独死ゼロをめざします。
③国連都市構想を実現します。 ユニタールに続いて、アジア太平洋軍縮センターなど国連の機関や国際機関、さらにはNGOやNPOの情報センターなどを誘致し、広島市をニューヨーク、ジュネーブに続く国連都市にします。

プロフィール

氏名 大原邦夫（おおはらくにお）

●大原邦夫プロフィール●

昭和 24 年 10 月 27 日 広島生まれ。

修道中高校卒。京都大学法学部卒。

NHK 記者として、社会部、首都圏部等を経て、平成 7 年広島市議選初当選。

無党派無所属の議員として 3 期務める。

前回の広島市長選挙に立候補。

現在、「企業活性化支援センターひろしま」代表として、アジア諸国に向けたビジネスプランを地元企業と展開中。

地域政党「広島からのうねり」代表